

2023年度事業計画

2023年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管、修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動
5. 美術館の運営

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 三井に関する歴史研究の拠点としての役割を果たすべく、研究員各自の調査研究（* a）を一層深め、外部研究者の参加も得て各種研究会や史料輪読会などを定期的に行き、それらの成果を「三井文庫論叢」（第57号）、外部の論集・研究雑誌、学会・外部研究会などで発表する。
* a 三井を中心とする江戸時代における商業史・金融史・制度史の研究、明治以降の経済史・経営史・政治外交史の研究など。
2. 三井関係資料（* b）の調査・収集を進める。
* b 近世では、三井一族・奉公人関係、取引先関係、縁故諸施設など。近代では、三井銀行関係、旧三井物産関係、三井鉱山関係、関係会社社史編纂資料、個人所蔵資料など。
3. 資料保存環境の整備（* c）を進める。
* c 書庫環境の調査点検、所蔵資料の点検と保存方法の改善。
4. 所蔵未整理資料の整理と公開準備（* d）を進める。
* d 旧三井物産資料、三井鉱山資料など。
5. デジタル・アーカイブの構築作業（所蔵資料のデジタル画像作成（* e）、所蔵資料等のオンライン公開体制の整備（* f））を進める。
* e ①三井不動産株式会社80周年記念事業による寄附を受けての「三井大元方勘定目録」「三井大元方寄会帳」、三井合名会社資料、三井総元方資料、三井本社資料のスキャニング。その他、旧三井物産資料、三井鉱山資料等のスキャニングなど。
②三井グループ350周年記念事業による寄附を受けての三井家記録文書、三井銀行資料、旧三井物産資料、三井鉱山資料等のスキャニング・撮影など。
* f 目録の検索システム・資料画像公開システムの整備、三井文庫刊行物の公開など。
6. 所蔵資料の中から一般的に史料価値の高いものを「三井文庫史料叢書」として翻刻刊行する（* g）。
* g 2023年度は大坂両替店「聞書」第三卷以降の刊行計画を検討する。
7. 社会経済史研究の共通基盤となるデータベース（* h）の作成・公開の準備を進める。
* h 三井合名会社理事会議案データベース、三池鉱業所往復文書データベースなど。
8. 戦後の三井関連事業などについてのヒアリングを行う。
9. 三井文庫WEBサイト（ホームページ）の充実をはかる。

10. 歴史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関・専門家との経験交流、情報共有、共同研究などに取り組む。
11. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力する。
12. 研究成果の社会還元ならびに資料保存への関心喚起のため講演会など一般向けの普及広報活動に取り組む。

II. 文化史・美術館関連事業

● 文化史関係（資料の保管整理研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、三井文庫別館の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、管理要項の作成、定期的な実査の実施などについて、作業を進める。
美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* i）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。
* i 掛軸、巻物、漆工品、刀剣。
2. 美術館および三井文庫別館の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室に関しては、温湿度・虫害・カビ等の管理を徹底し、空調設備の微調整を行う。また、収蔵庫内の有毒ガスなどの測定を定期的に行う。さらに、美術館収蔵庫・展示室の燻煙による害虫の駆除、美術館収蔵品・三井文庫別館収蔵庫・展示室のガス燻蒸による、害虫およびカビの駆除なども状況に応じて実施する。
3. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。また、並行して研究員各自の調査研究（* j）を一層進める。
* j 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。
4. 2021年度、三井文庫本館と三井記念美術館に対し、三井不動産株式会社創立80周年の記念事業としての寄附があった。美術館ではそのうち約7割を充当し、記念事業として「三井の文化に関わる社会貢献－過去から未来へ－」のテーマのもとに、収蔵品のデータベース化、ホームページでの映像配信、三井の文化と社会貢献に関する出版、図書の保管施設および松の茶屋内記念書庫の増設などを実施中。なお、この事業は5年以内を目途に実施する。
5. 『三井美術文化史論集』第17号を発行する。
6. 2022年度、国と都の補助金により国宝・重文の刀剣6点の修理を実施した中で、国宝の短刀（徳善院貞宗）が修理中に修理の必要な箇所が見つかり、その修理を2023年度申請して実施する。
7. 学会・大学・研究機関などの研究会等については、新型コロナウイルス感染拡大状況や社会情勢を見ながら受け入れを検討する。
8. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（美術館活動事業）

1. 2022年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の発生ならびに拡大防止を重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの生命・安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行する。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行った以下の対策については、感染拡大状況や社会情勢を見ながら継続もしくは緩和を検討する。

- ①来館者に対するマスク着用のお願ひ、入館時の検温、手指の消毒、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞のお願ひ
- ②展示室が密になることを避けるため、必要に応じて在館者数の上限を定める
- ③団体来館の分散入館をお願ひする
- ④職員のマスク着用、手袋着用、毎朝の検温

2. 2023年度は、三井記念美術館の展示室において、次の5期に分けて展覧会を開催する。
(年間開館日数255日間)

①『NHK大河ドラマ特別展 「どうする家康」』

2023年4月15日(土)～6月11日(日) 開館日数：51日間

②『越後屋開業350年記念特別展 三井高利と越後屋-三井家創業期の事業と文化-』

2023年6月28日(水)～8月31日(木) 開館日数：58日間

③『特別展 超絶技巧、未来へ! 明治工芸とそのDNA』

2023年9月12日(火)～11月26日(日) 開館日数：66日間

④『国宝 雪松図と能面×能の意匠 特集展示 新寄贈能面』

2023年12月8日(金)～2024年1月27日(土) 開催日数：36日間

⑤『三井家のおひなさま 特別展示 丸平文庫所蔵 ^{みやこ}京のひなかざり』

2024年2月10日(土)～3月31日(日) 開館日数：44日間

*展覧会終了は4月7日(日)

(注) 展覧会名、開催期間等一部変更が生じる場合がある。

3. 特別展の入館料について、以下の通り改定する。

一般 1,300円 → 1,500円 (+200円)

大学・高校生 800円 → 1,000円 (+200円)

中学生以下無料 (変更なし)

※70歳以上割引 800円 → 1,000円 (+200円)

※その他各種割引についても、上記値上げ幅に倣い料金改定。

4. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。

5. 上記展覧会のうち、①②③の展覧会では展覧会図録を発行する。

6. 壁付展示ケースのガラス開閉用電動機構の電動部ジョイント部品がプラスチック系樹脂製であり、経年劣化による故障が生じるため、順次部品交換を実施する。

7. 美術館教育に関わる下記事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や社会情勢を見ながら、対面、オンラインを選択し実施する。

- ・一般および青少年を対象とした、講演会、講座、鑑賞会、ワークショップ
- ・教育機関、教職員を対象とした研修会、研究会

- ・教育機関の研究会等の受け入れ
 - ・教育機関、学校の見学の受け入れ
 - ・大学生の見学、研修の受け入れ
 - ・都内の教育機関からの要望に基づく出張講座
8. 青少年向けの展覧会ワークシートの制作・配布を行う。
9. 美術館の運営およびPR面において、以下のとおり取り組む。なお、各事業については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や社会情勢の推移に応じて、その都度実施の有無を検討していくこととする。
- (1)各展覧会の開催に合わせて記者説明会、特別内覧会を実施する。
 - (2)東京駅周辺の6美術館（アーティゾン美術館、出光美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー、静嘉堂文庫美術館、当館）で連携して下記事業を行う。
 - ・「東京駅周辺美術館共通券2024」の発行（2024年1月販売開始）
 - ・「東京駅周辺美術館MAP（2023年4月～9月版/10月～2024年3月版）」の発行
 - ・「EDO TOKYO NIPPONアートフェス2023」の実施
 - ・「学生無料ウィーク」の実施
 なお、各事業については、各館の展覧会開催状況も含め、6館で運営している公式サイト「6museums.tokyo」にて都度情報開示を行う。
 - (3)当館の普及広報活動の一環として例年参加している「東京・ミュージアムぐるっとパス2023」に参加する。
 - (4)一定の集客強化対策として、有力会員組織との連携関係を検討する。
 - (5)来館者のリピーター化の促進および新しい来館者層を開拓するため、ミュージアムショップにおいては、テーマ性や季節感のある演出を心掛けるとともに、オリジナルグッズの開発を進める。
 - (6)リピーター層確保のため「ミュージアムパスポート」の販売を継続する。
 - (7)顧客満足度の高いサービスの提供に役立てるために実施してきた来館者アンケートを再開する。
 - (8)近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与するための事業へ参加する。
 - (9)日本橋室町地区の商業集積度の向上に合わせ、外国人来館者等への対応を進める。
 - (10)三井グループ各社へのインナーキャンペーン強化のために例年行っている、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社社員招待会」、「賛助会社女性社員招待会」の開催、また各社の新入社員研修等の受け入れを検討する。
 - (11)賛助会社のVIPご招待など、美術館閉館後や美術館休館日の貸切り特別サービスについて、受け入れを検討する。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

2022年11月21日に、箱根町教育委員会主催の「文化財探訪会」において、「残月の間」「霞の間」を中心に公開を行ったが、2023年度も箱根町と協議の上、引き続き「文化財

探訪会」を通じて公開するとともに、建築、茶道等関連研究者等の見学会や外部講師を招いた研究会を実施する。

修繕工事については、残月の間の柿葺きの修繕等の工事を中心に行う予定である。

<収益事業>

I. 不動産賃貸業

三井花桐ビルは、テナントの出入りはあったが満室となっており、2021年度並みの収入を確保する見込みである。2023年度の修繕工事は、例年通り空調機の部品交換および加湿器メンテナンス工事、建物診断等を実施する予定である。

<三井グループ350周年記念事業>

2023年は三井グループの源流である三井高利が江戸に進出してから350周年を迎えるため、「三井グループ350周年記念事業実行委員会」が設置され、2023年度から2027年度にかけて「三井グループ350周年記念事業」が実施される。

三井文庫では、当該事業に係る寄附金（総額4億円程度の予定）を受け、以下の公益事業を実施する計画であるが、各年度の寄附金の受取額が確定していないため、実施時期が変更となる事業もある。

1. 社会経済史研究室所蔵の史料のデジタル化（公1、2023年度～2027年度）
2. 中野別館の改修（公2、2023年度～2024年度）
3. デジタル化のプラットフォーム・特設webサイト制作（公1、2023年度～2027年度）
4. 「越後屋開業350年記念特別展 三井高利と越後屋－三井家創業期の事業と文化－」の開催（公2、2023年度）